

東京を世界に誇れる 文化都市に 2020オリンピックは 絶好の機会

本誌は過去に3回に亘ってトラックショーとの併催で、「商業車デザインコンテスト」を開催した経緯がある。当時も経済が好調に推移して、物流が熟せなくなるほどトラックのドライバー不足が深刻で、少々コストをかけても見栄えの良いトラックを導入して、ドライバーの定着を図る活動が行われていた。最近は少子高齢化に加えて、若者の車両離れもあり、ドライバー不足は更に深刻である。そこで、オートボデープリンターを提供する(株)エルエーシーでは、運送業界と東京デザイン専門学校に呼びかけて、産学協同プロジェクトを立ち上げ、デザイントラックの普及促進を図ってきた。本誌もこの活動には注目しているが、この取材を通じてお目にかかったのが、東京デザイン専門学校の戸田吉彦先生である。なんとか一度お話を伺いたいと思っていたが、幸運にも2017TTSショーにご来場くださり、その機会を得ることが出来た。会食を兼ねた懇談は2時間余りに及び、極めて充実した濃い内容となった。

■恵まれたデザイン関係者との出会い

□秋林路 突然失礼ですが、何年のお生まれですか。

◆戸田 昭和27年(1952)ですので、いま65歳です。

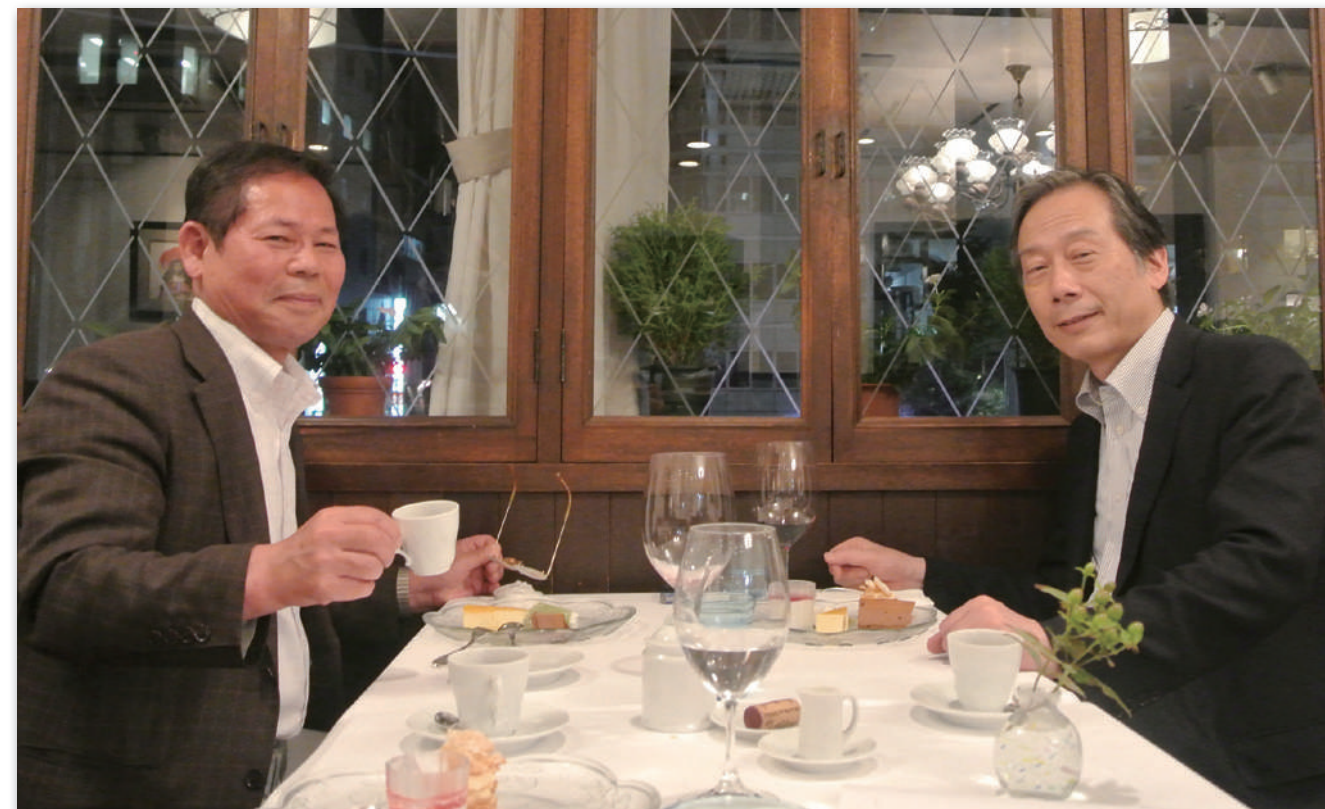
□秋林路 流石、デザインの世界にいらっしゃいますので洋服のセンスも素晴らしいし、お若く見えます。

◆戸田 毎日子ども達と接していますので、気

分だけは若いです。(笑)

□秋林路 ご経歴(別載)も大変なもので、現在は東京デザイン専門学校勤務(学校長補佐兼社会活動推進室長→クリエイティブディレクター兼社会活動推進室統括)ということですが、どういう経緯でデザインの世界に?

◆戸田 父は山形の出身ですが、上野の美校(現東京芸術大学)の最後の卒業生で洋画家でした。それで、私が生まれて間もなく母子を残してフランスに留学してしまい、5歳までは母の実家がある北海道で育てられ、父が帰国した時に東京に



本誌・秋林路(左)と戸田吉彦先生 東京デザイン専門学校専任講師／
学校長補佐兼社会活動推進室長

戸田 吉彦氏 経歴 Yoshihiko TODA Profile

生年：昭和27年(1952年)

本名：戸田 古典(ヨシフミ)

名前の漢字は通常ヨシフミと読まないで間違いを避けるため仕事では吉彦を使用。

職業：クリエイティブディレクター、アートディレクター、デザイナー。

経歴：多摩美術大学グラフィックデザイン科在学中は、田中惣二氏に師事。卒業後ヒジカタ・クリエイティブ・ユニット入社、土方弘克氏に師事。

在職中「浅田飴」「旭化成」「マルコメ味噌」「東急不動産」「野村不動産」「トヨタ」「シュガーカット」等の広告デザインを中心にデザイン、装丁は、「東芝 EMI」レコードジャケット、「学研」限定豪華写真集、「小学館」写真集、「NHK 出版」写真集等をデザイン、ロゴタイプは、「飯田橋ラムラ」「ベルビー赤坂」「遠野市立博物館」「岡山厚生年金休暇センター」「松山市立子規記念館」等をデザイン、CIシステムでは、「太平洋証券」を設立時にマークと展開をデザイン。

1989年3月退社と同時に戸田吉彦デザイン事務所設立。

同年4月土方氏推荐で日債銀G(学)原宿学園東京デザイン専門学校の伏見文夫副校長代行として教壇に立ち、以後同校との関係が現在に至る。

翌年4月、日債銀(株)原宿デザイン創業時に企画制作部長を拝命。同校CIを行うと共に「エステール」「花菱」「アキテック」「のぞみ証券」「杉並学院」「日本歯科商社」のCIデザインをコンペで採択される。また、日債銀Gを中心に「警察・警視庁」関係団体など顧客多数を開拓。その他、「JR 東日本安全研究所」「山形新幹線在来線踏切新デザイン案」「ワーナーブラザーズ」「ハリーポッター開始時ライセンス事業案」の採用。

2000年同社取締役。2002年日債銀G解散に伴い退社。(株)エターナル・グランズ設立。現在同社代表取締役兼クリエイティブディレクター。あおぞら銀行、九段都市鑑定、東京都港湾局、日経社、日本自動車会議所、三菱クリンスイ、ワーナーエンタテインメントジャパン等からデザイン受託。その他、東京デザイン専門学校専任講師／学校長補佐兼社会活動推進室長して学外コンペと産学官連携を2002年以降指導し、現在に至る。情報デザイン分科会委員、情報検定試験委員、多数のコンクール審査員。フジテレビ「めざましTV」で「わかりにくい交通サインの原因」解説。受賞：日本雑誌広告賞金賞3回、フジサンケイ広告賞シリーズ広告賞、消費者のためになった広告賞優秀賞、(学生と共に)日本ユネスコ大使賞等。



山形新幹線開通前に JR 東日本安全研究所からの依頼で『未来の踏切』をテーマに戸田先生がデザインした「郊外型」(左)と「都市型」(右)

戻っています。ところが、父は奔放な人で、家に帰って来ないしお金も入れない。それで教職にあった母が私と妹を女手ひとつで育て上げました。

私自身は子供の頃から絵を描くことは好きで、先生にも褒められていました。画家の子ですからそういう意識もあったのですが、お袋の苦勞を見ているものですから「画家になりたい。」とはなかなか言い出せず、それで、普通の国立大学を受験したのですが見事に失敗、やはり自分に器用な事はできないと、お袋に「絵の勉強をさせて欲しい。」と頭を下げたところ、意外にも「いいよ。」と即答してくれました。それでアルバイトで学費を作る傍ら、予備校に通い、縁あって多摩美術大学に入ることが出来ました。しかし、仕事に就ける分野を…と思いグラフィックデザイン科を専攻しました。

□秋林路 なるほど、ご尊父様は芸術家に多いタイプですね…(笑)。そういう方は傍迷惑ですが、どこか怨めない人が多いですね。

◆戸田 お袋は大変だったと思います。多摩美を卒業した年、ヒジカタ・クリエイティブ・ユニットに入社し、当時有名だった土方弘克氏に師事しました。

□秋林路 ご経歴を拝見しましても、著名な方々との出会いがあり、素晴らしいお仕事をなさっていますね。

◆戸田 これは平和で日本経済も右肩上がりの

時代に、素晴らしい皆様と出会ったことが全てだと思います。

□秋林路 “運も実力の内”と申しますから、やはり運を掴む力、運を引き寄せる力が強かったのだと思います。

◆戸田 運は分かりませんが、とても良い勉強をさせて頂いたと思っています。

□秋林路 現在の東京デザイン専門学校に移られた経緯は？

◆戸田 38歳の頃から週3回は授業を持っていたのですが、私がちょうど50歳になった時に日債銀G(株)が解散することになりまして、それを機会に専任勤務することになりました。

□秋林路 一般企業ですと、定年を過ぎたご年齢ですが、現在のお仕事は満足しておられますか。

◆戸田 現在は学校と企業を繋ぐパイプのような仕事です。いろいろ大変なこともありますが、これまでやってきた事が活かせるのは有難いことです。

■街の景観はその国の文化そのもの
物まで感性を磨き上げることはできない

□秋林路 ところで、今更ですが“デザイン”って何ですか？

◆戸田 デザインもひとつの表現方法です。ただ、色をキレイに塗れば良いという訳ではなくて、



学生によるデザイントラック

考え方や思想が反映されます。ですから同じ東京デザイン専門学校の生徒達も高卒者と大卒者では思考経験が違いますから、表現結果も違います。彼等には「卒業した時がスタートライン。」と励ましています。

□秋林路 生徒さんが描いたデザイントラックの表彰式も、これまで二度見せて頂きましたが、生徒さんによってそれぞれレベルに差があると感じました。

◆戸田 デザインの善し悪しは難しい判断ですが、見れば見るほど訴えてくるもの、考えさせられるものがある一方で、キレイだけれども物足りない作品もあります。デザインに限らずそれが表現の世界だと思います。

□秋林路 見る側の感性とか、時代背景もあるでしょうね。テレビも無い時代でしたら、比較するものが知識として少ないので、ポスター1枚見てもスゴイと感じると思います。トラックやバスの車体をキャンパスに見立てて表現することは、これまで殆どなかった活動ですよ。

◆戸田 その通りだと思います。自動車の歴史はそれ程古くないし、車体に描く効果や価値についてもまだ研究考察が少なく確立されていないと思います。

□秋林路 そうですね。本来、トラックは「物を

運んだり作業すること」が目的で、その為には荷物を載せる荷台が必要だし、荷物を風雨から守る為に、荷箱が必要になります。ところが荷箱は密閉機能ですから、荷物の積み下ろしの際には邪魔になります。では、車体の後ろや横に扉をつけましょう。フォークリフトで一度に大量に荷役する時には側面を全開放出来るようにする。それがウイングボデーです。トラックを注意深く見ると、車体は四角い箱だけじゃなくて、ダンプトラックやタンクローリ、ミキサ車、ゴミ回収車など用途によって形状が異なります。

この車体は、これまで色を塗ったり、企業名や商品を描いたり、少しは宣伝目的に活用されています。しかし、そのあり方を学問として本格的に研究した人は居ないのではないかと思います。

◆戸田 確かに車両のボデーをキャンパスとしてデザインする研究はまだないと思います。20世紀中頃にメキシコで、壁面に大きな絵を描くブームが国家規模でありましたが、普通は大きな絵を描くチャンスはそれ程ないものです。

□秋林路 都内では最近お風呂屋さんが少なくなりましたが、随分前に銭湯の壁画を描く職人さんにお話を伺ったことがあります。富士山とか滝とか、自然の風景が多いのですが、大きな絵を下書きもなしに短期間で書き上げるのだそうです。あの銭湯



学生によるデザイントラック



学生によるデザイントラック

の絵は近くで見ると粗っぽい筆遣いですが、離れて見ると実に綺麗に見えます。絵の職人さんはスゴイな、感じたものです。

◆戸田 昔の映画館は手書きの大きな看板を上げていましたが、やはり遠目の効果を知り尽くした描法です。あれも職人さんが短期間に描き上げていました。絵が上手だとかのレベルを超えた正に名人芸です。

□秋林路 最近はデジタル化で写真を大きく引き伸ばしてフィルムで貼る手法などに変わりましたので、名人芸の看板屋さんも少なくなったと思います。

◆戸田 確かにそういう意味で職人さんが腕を磨く機会も少なくなりました。学生たちが制作するデザイントラックもパソコンで描いた絵をデータ化して、車体に塗布していますので、完成したサイズの違いに驚いています。これはバーチャルと現実の違いなのですが、学生達にはサイズの違いによる訴える力の差を知って欲しい。その積み重ねが経験から得られる活きた知識になります。

□秋林路 このバーチャルと現実の問題は、人工頭脳(AI)の進化で更に近づくように思います。

◆戸田 実は東京デザイン専門学校にはマンガ

科があります。子供たちはマンガの本を沢山読んでいますから、「早くマンガを書けるようになりたい。」と言います。でもマンガを真似してマンガを描いても物まねでしかないので、作品は嘘っぽいものになってしまう。まずは目に見える対象をよく観察するデッサンから始め、その結果のデフォルメとしてマンガにする勉強が大事です。そうじゃないと人を惹き付ける独自性が生まれて来ないのです。

□秋林路 いいお話ですね。本誌 8 月号でも引用(編集後記)したのですが、手塚治虫さんが「君たち、漫画から漫画の勉強をするのはやめなさい。一流の映画を観ろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め、そして、それから自分の世界を作れ。」の言葉を遺しています。物まねではそのレベルを超えられないという事ですが、全ての分野に通じることだと思いますね。空理空論を学んでも時間のムダになってしまいます。

◆戸田 私が尊敬する先生も、同じ内容を、「技術は後からいくらでも覚えられる。大切なのは何に感動するかという感性を磨くことだ。」とおっしゃっています。この感性は物まねでは絶対に磨き上げることは出来ません。

□秋林路 その通りですね。技術は時代の変遷と共に変化します。その変化を感じ取る事が出来なければ、オリジナリティを発揮出来ないし、その先に進むことも出来ません。

◆戸田 これは専門学校にいる私がいうのだから間違っていないと思いますが、専門知識だけを身に着けても、社会に出て役に立たない。やはり、幅広くレベルの高い勉強をする事が大切です。

■街の景観はその国の文化そのもの

□秋林路 同感です。私は割合早い時期(昭和50年代)から自動車産業界の皆さんと海外の視察に出かけました。ASEANは少ないのですが、欧米と中国、韓国は年に1~2回、10数年に渡って続けたので、だいぶ見聞を広げる事が出来ました。中国は大連~瀋陽・長春~北京~西安~上海と廻りましたが、まだ解放前でしたので、日本の戦前がそのまま残っているような景観でした。米国は既に中高層のビルが林立していて、シカゴやニューヨークではスクラップ & ビルドが進められて

いました。

この視察で印象深かったのはロンドンの景観です。街並が非常にスッキリしているし、バスやタクシーの色や形も統一されていて、違和感がありません。歴史の違いを痛感したものです。

◆戸田 街の景観はその国の文化そのものです。東京は今、無秩序にビルが立ち並んでいますが、江戸時代は美的にレベルの高い街が形成されていた事実を外国人も記しています。街自体も、士農工商の住み分けが効率的に配置され、時代劇に出てくる長屋も庶民の生活と人情を損なわない構造になっています。

□秋林路 これは永く続いた徳川が偉かったのだと思いますね。現在いる銀座(パリの朝市=洋食店)境界も元は貨幣を造る職人が居たし、少し築地方面に歩くと木挽町という地名が残っていますから大工さんが腕を磨いていたのだと思います。

◆戸田 昔の東京は、江戸城を中心にした街づくりとはいえ、それまでの城下町とは違って、相当レベルの高いデザインだったと思います。

□秋林路 話題が少し現実に戻りますが、いま2020年のオリンピック開催に向けて競技場の建設



本誌 2014 年 10 月号に掲載の小池議員(当時)との対談風景

など準備が進められています。我々自動車業界でも、その時に急増する外国人を搬送するバスの開発が進められています。

現在使用している日本のバスは軽油を燃料とするディーゼル車が殆どです。もちろん排ガスは世界一規制が厳しくなっているのでクリーンになっています。それでも排ガスが出ない訳ではないので、これを電気自動車に切り替える動きが非公式に進められています。

中国は 2010 年に上海万博を開催した際に、来場者の輸送に多量の電気バスを導入して、環境への取り組みをアピールしました。それから 10 年後の 2020 年のオリンピックで排ガスの出る車両を使っていたのでは、日本の信頼は失墜してしまいます。

具体的にはいすゞ自動車と日野自動車が共同で水素を活用した燃料電池バスの開発に取り組んでいますが、多量の電気バスが都内とオリンピック会場周辺で走ることは間違いないと思います。

ただ、私は動力をディーゼルから電気に切り替えるだけでは不十分ではないかと考えています。“都市の景観”という意味では、新たに導入する電気バスは極めて車体デザインが大切になります。ロンドンのように、バスやタクシーもデザインを統一すれ

ば、街の景観は随分変わる筈です。

◆戸 田 確かに、オリンピックのマークは大きな問題に発展しましたが、街の景観や車両の色、デザインまでは殆ど話題になっていませんね。

□秋林路 実は、私は約 3 年前に小池百合子都知事と対談しました(本誌 2014 年 10 月号掲載)。当時は自由民主党でしたが、小池さんは FCV(燃料電池自動車)を中心とする水素社会実現を促進する研究会の会長をしておられました。(現

在の会長は小淵優子議員)

それで、トラックの環境問題もテーマのひとつに上ったのですが、防災と景観の面から電柱を無くす活動を展開していることを明らかにされました。この時はオリンピックとの関係は話題にならなかったのですが、現在は都知事の立場ですから、都市の景観の点から車両デザインのあり方をリードできるお立場です。

◆戸 田 車両のデザインだけでなく東京の景観も変えるというお話ですが、壮大な内容ですね。

□秋林路 確かに夢物語のような話しですが、環境問題など時代の流れであったり、自動運転を含めて車両技術が大きく変わる時期に来了います。しかも、東京の景観を変えたいと思っている人が都知事になって、オリンピックを迎えようとしている訳ですから、こんなビッグなタイミングは滅多にないと思います。幸い当社が主催する 2019 年の TTS ショーは(一社)電気自動車普及協会(横川浩会長=日本陸上競技連盟会長)と共催ですので、一緒にオリンピック関連車両の統一デザインを提案してみてもどうかと考えています。

◆戸 田 それは素晴らしい提案になると思いま



当時、小池議員が進めていた富士山の絵を使った無電柱化のポスター

す。色々な関係機関に呼びかければ、同調者も増えると思いますし、話題性もあるので、オリンピックのPRにもなると思います。展示会(TTS ショー)も前年ですから、そこでイベントも出来ますね。

□秋林路 はい、そういうタイミングもピッタリなんです。それで、ご相談なのですが、せっかく戸田先生とこうしてご縁が出来ましたので、東京都および東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への提案に、東京デザイン専門学校も参画頂けないかと考えています。

◆戸 田 それは刺激的なお話で名誉な事です(笑)。ただ、急なお話しですし、私が今ここで即答できる立場にはありませんので、東京デザイン専門学校の役員とも相談したいと思います。私とし

ては素晴らしいお話だと思います。

□秋林路 有難う御座います。正直言って具体的な事は一つ決まっている訳ではないのですが、東京デザイン専門学校の生徒さん達も一緒になってオリンピック用車両のデザインを考えて頂くと、教材としても面白いのではないかと思います。

◆戸 田 当校が参画させて頂けるかは別にしましても、日本としても滅多にない機会ですから、オリンピック車両は、グラフィックアートのにも、工業デザイン的にも、世界が目を見張るレベルのものを作るべきだと思います。

□秋林路 私は昭和 39 年(1964)の東京オリンピックの時は 17 歳でしたが、非常に胸が時めいた事を覚えています。この時のオリンピックでは新幹線が開通したり、高速道路が建設されたりと、様々なインフラが整備されて、その後の経済発展に大きく貢献しました。2020 年に開催するオリンピックも、オリンピックを開催する目的だけを考えていたのではダメだと思っているんです。その先の、2030 年、2040 年、

2050 年の姿を描いて、プランを立てるべきです。政治の世界では“国家 100 年の計”という言葉がよく使われますが、今こそ、その言葉をよく吟味して、プランニングするべきですよ。

◆戸 田 全くその通りだと思います。先のオリンピックが第二次世界大戦後の経済発展に繋がったように、100 年後の人達が「2020 年のオリンピック開催が、日本にこれだけの繁栄をもたらした。」と実感してくれるオリンピックになると良いですね。

□秋林路 その通りです。その為には、日本人の全てがそれぞれの立場で、一所懸命考えて提案し、行動するべきなんです。

今日はとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。またお目にかかれましてを楽しみにしております。有難う御座いました。